

千葉県のパートタイマー2006

—アンケート調査報告（2006年4月～7月）—

星 真 実

はじめに

本報告は、「平成18年度敬愛大学経済文化研究所『課題研究』研究助成金制度」に基づく研究費500,000円の一部を活動資金とするフィールドワークの成果であり、「2004年度パートタイマー調査¹⁾」に続く『パートタイマー実態調査報告』の第2弾と位置付けたい。

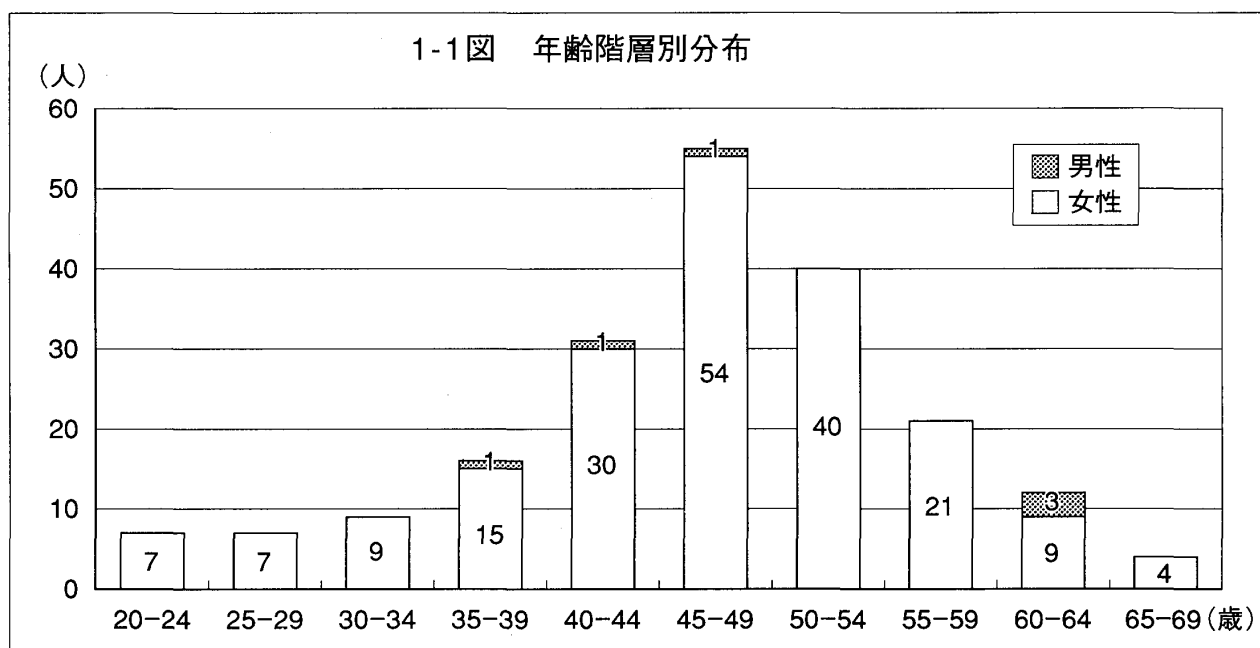
調査方法は、2006年4月24日から7月23日の3ヵ月間に亘り、先の調査同様、千葉県内各駅周辺²⁾で街頭調査を実施した³⁾。アンケート回収数は222枚、有効回答203枚（内訳は、女性197人、男性6人）⁴⁾。地域研究の一環として調査対象者の居住地域を千葉県内に限定した2004年度に加え、労働移動の観点から居住・勤務地域のどちらかが東京都・他県という回答でも有効とした。特に、「フリーター」という身分との境界は、女性では未婚か既婚か—いわゆる『主婦パート』—という判断基準もあるが、男性では34歳までという年齢以外曖昧であり、或いは職場での身分的呼称と相違があるかも知れないが、自称「パートタイマー」であることを第一義に有効回答とした。

「パートタイマー」調査は、「フリーター」あるいは「日雇労働者」「路上生活者」共々、自己の周期的・定点観測的な「貧困」調査であり、絶対的な物的貧困のみならず、相対的な「心の貧困」に迫りたいと、常々考えている。「貧困」調査対象者としてのContingent Workerの一形態という観点から、「2005年度フリーター調査⁵⁾」との比較も交えながら、以下にその集計・分析結果を報告したい⁶⁾。

1. 基礎データ

1-1. 年齢階層別分布

5歳毎の年齢階層別に見ると（有効回答202人・無回答1人）、「45～49」歳を頂点とする正規分布となった。実年齢では48歳が14人と最多で、平均年齢は46.5歳。40歳から64歳までの「中高年」労働力人口で、実に全数の78.71%を占める。



なお、男性6人のデータは「アルバイト」ではないかという異論もあるが、①少なくとも34歳というフリーターの「年齢制限」は超えている、②「長期間・短時間」で勤務している、そして本論の冒頭でも附言した③調査時に自分はパートタイマーだと自己申告している、という3点を根拠に、以下の項目に関わっては有効回答として加算した。

1-2. 居住地域と勤務地域

居住地域・勤務地域別共に21市町、延べ千葉県内26市町に跨ってアンケートを回収することが出来た。地域別回収数（有効回答203人）では、千葉市が居住地域（121人）・勤務地域（118人）共に群を抜き、次いで船橋市、君津市、匝瑳市の順。

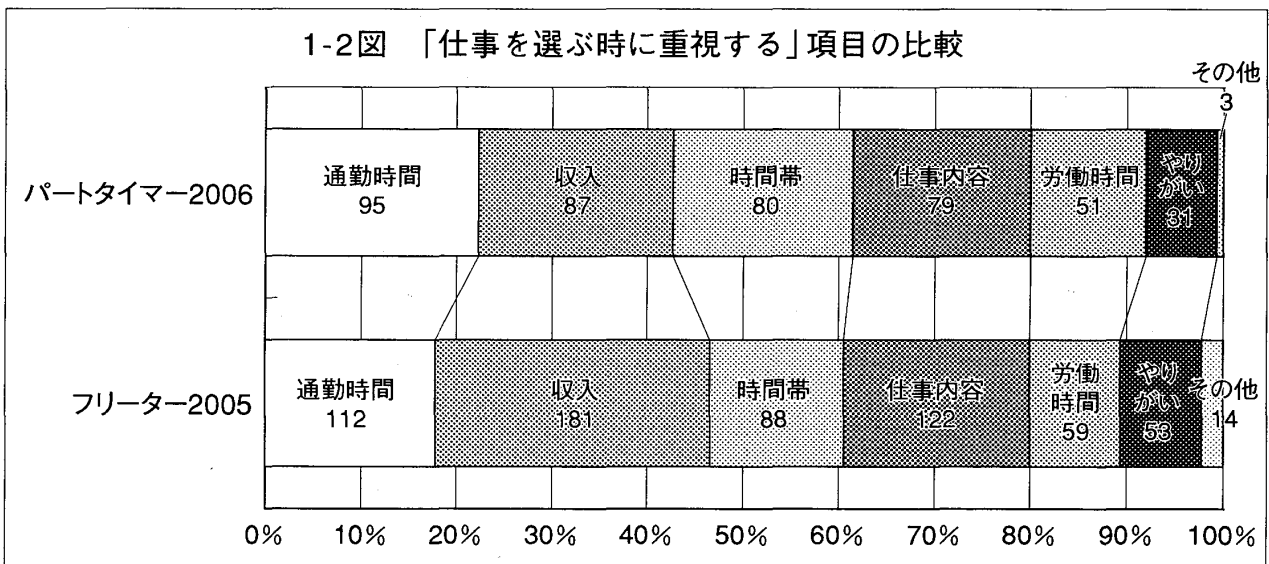
1-2表の「居・勤一致」は、居住地市町が勤務地市町（＝パート雇用先）と重複している人数である。「2005年度フリーター調査」では69.68%であった居住地と勤務地の一致率は、87.19%と極端に高い職住接近値を示した。勤務地域が他地域である26人についても、例えば習志野市→船橋市、木更津市→君津市、一宮町→茂原市など隣接地域への移動が殆どである。

多くのパートタイマーが職住接近を望む傾向は、「パートを選ぶ時に重視するのは？」（複数回答426件、回答者実数201人）への回答でも顕著である。「通勤時間」は、フリーターでは3位（32.94%）であるが、パートタイマーでは1位（47.26%）で、その全数が女性であった一男性6人という数は考察に足る母集団数ではないが、その内4人が「仕事内容」に○を付けるという意見の一致があった。

1-2表 居住地域・勤務地域別アンケート回収数（単位：人）

	旭市	市川市	一宮町	市原市	印西市	浦安市	柏市
居住地域	2	6	1	6	1	0	2
勤務地域	5	4	0	6	1	1	2
居・勤一致	2	4	0	5	1	—	1
	鎌ヶ谷市	木更津市	君津市	佐倉市	山武市	酒々井町	白井市
居住地域	2	2	10	1	8	0	0
勤務地域	0	0	11	1	5	1	1
居・勤一致	0	0	10	1	5	—	—
	匝瑳市	袖ヶ浦市	千葉市	富里市	習志野市	野田市	船橋市
居住地域	11	0	121	0	1	1	17
勤務地域	8	1	118	1	0	0	20
居・勤一致	8	—	116	—	0	0	15
	茂原市	八街市	八千代市	横芝光町	四街道市	東京都	計
居住地域	1	5	1	2	2	0	203
勤務地域	2	8	1	1	2	3	203
居・勤一致	1	5	1	1	1	—	177

1-2図 「仕事を選ぶ時に重視する」項目の比較



「その他」を参考記載すると、「服装・髪の色」（23歳女性、おにぎり屋）、「職場の雰囲気」（26歳女性、百貨店化粧品売場）、「年齢的にパートになってしまう」（58歳女性、農協の野菜集荷場）の3件。

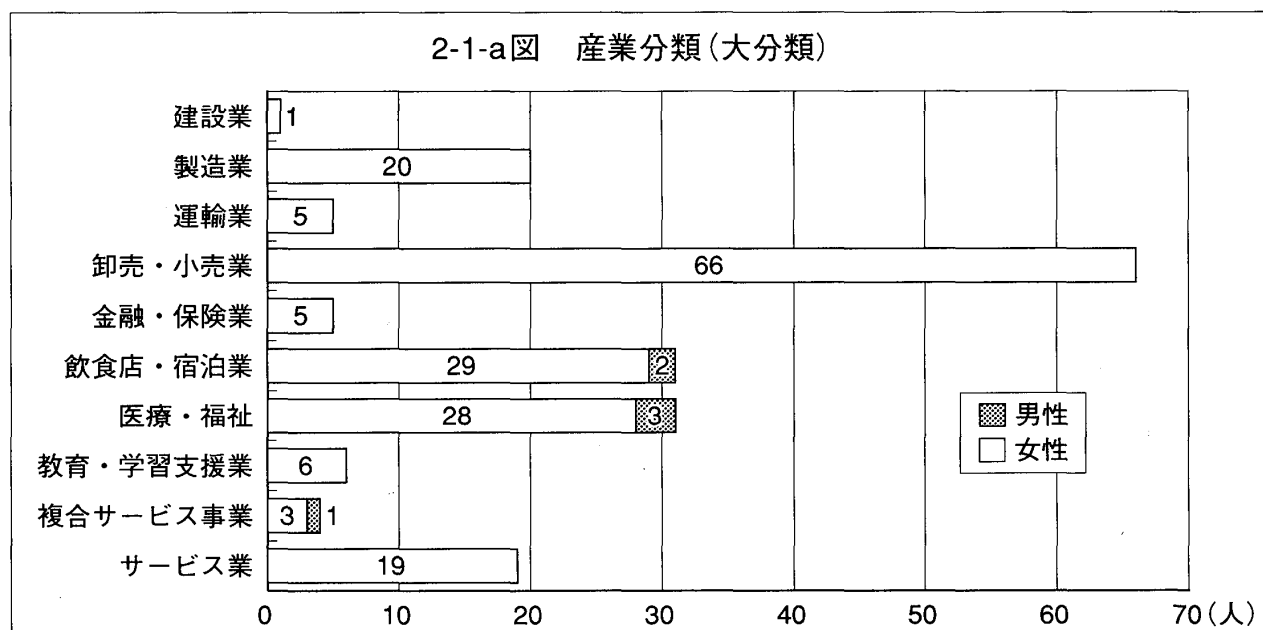
2. 労働に関わるデータ

2-1. パートタイム労働の種類

「何のパートをしていますか？」というアンケートへの回答は、「レジ」「接客」「窓口受付」など区々で、分類困難で無効にしてしまった反省を踏まえ、今回「業種」「職種」という項目を追加した。回答を見る限り、自分が何の業種・職種で働いているかという認識は意外に希薄なようだが、分類可能な情報を得ることには成功したため、以下産業別・職業別での考察を行いたい。

a) 産業分類（有効回答188件、回答者実数185人・掛け持ち3件を含む）：総務省統計局「日本標準産業分類（平成14年3月改訂）」に基づく大分類では、1位が「卸売・小売業」66件（35.11%）、2位が同数で「医療・福祉」「飲食店・宿泊業」31件（16.49%）、4位が「サービス業」19件（10.11%）の順。「農業」「林業」「漁業」「鉱業」「不動産業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「公務」に該当はなかった。

「2004年度パートタイマー調査」でも「卸売・小売業」（49.71%）、「サービス業」（16.96%）は上位であったが、今回「医療・福祉」が2位となった点が注目に値する。高齢化社会の到来と共に認知症や障害に対する介護問題が急増してきた、2000年4月施行の介護保険制度が定着して医療・介護労働への有効需要を創出した、など理由付けは出来よ



う。しかし、「2005年度フリーター調査」では僅か1.5%しか従事していないこの産業にパートタイマーが多い理由は、やはり介護職・看護職は「女性職」である—それを優位と取るか、差別的雇用と取るか、ここでは不問として—という社会的認識・風潮のせいではなかろうか。但し、2004年以降准看護師から看護師への移行教育が行われている現況では、介護職・看護職をパートタイマーで良しとする日本の雇用情勢に些か疑問は残る。

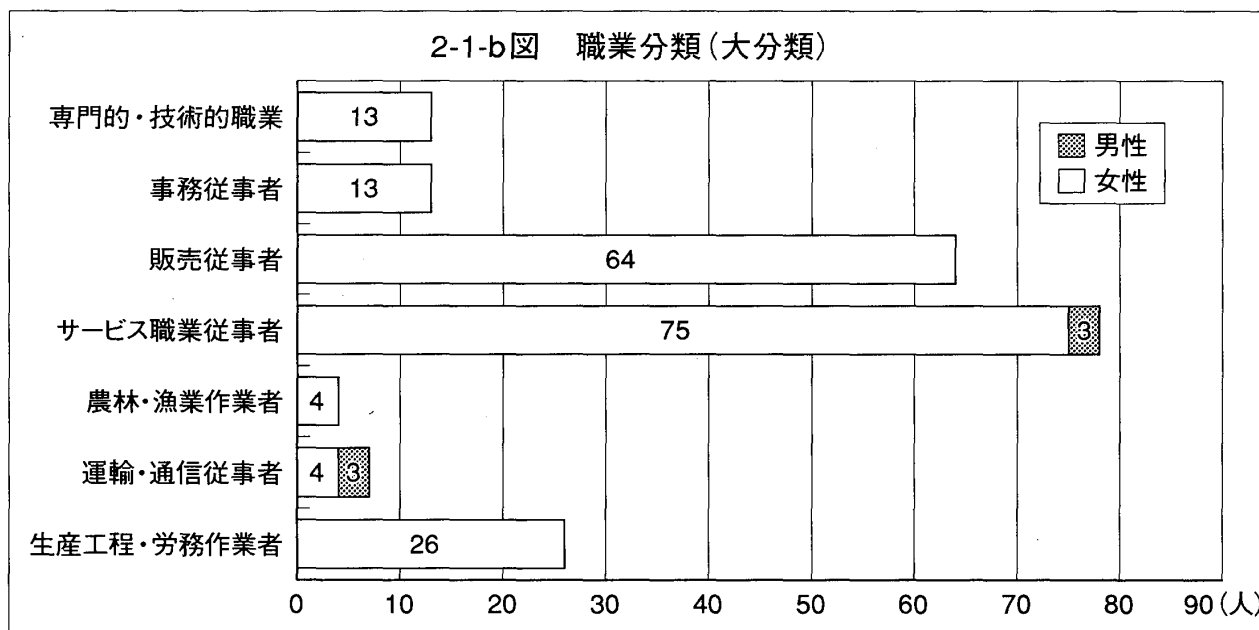
参考までに、具体的に記入された職場・店名など143件を、産業分類に即して細目化すれば以下の通り—〔 〕内は基本女性、併記は〔女性、男性〕順の該当件数。

- ・建設業：水道工事〔1〕。
- ・製造業：食料品製造〔13〕、自動洗濯機製造〔4〕、自動車部品加工〔1〕、ゴム製造〔1〕、ショーケース製造〔1〕。
- ・運輸業：倉庫内作業〔3〕、運送会社〔1〕、野菜集荷〔1〕。
- ・卸売・小売業：スーパーマーケット〔14〕、コンビニエンスストア〔9〕、百貨店〔3〕、弁当屋〔3〕、靴販売店〔2〕、本屋〔2〕、フラワーショップ〔2〕、携帯電話販売店〔2〕、ホームセンター〔1〕、雑貨屋〔1〕。
- ・金融・保険業：銀行窓口業務〔5〕。
- ・飲食店・宿泊業：ファミリーレストラン〔6〕、回転寿司店〔4〕、ファーストフード店〔2〕、喫茶店〔2〕、居酒屋〔1, 1〕、ラーメン店〔0, 1〕、キャバクラ〔1〕、ホテル〔1〕。
- ・医療・福祉：介護職員（ヘルパー）〔16〕、デイサービス〔6〕、ショートサービス〔0, 2〕、特別養護老人施設〔3〕、高齢者施設〔1〕、障害者施設〔0, 1〕、病院〔1〕、歯科医院〔1〕。
- ・教育・学習支援業：学童指導員〔4〕、保育士〔1〕、カルチャーセンター講師〔1〕。
- ・複合サービス事業：郵便局〔1, 3〕。
- ・サービス業：清掃〔9〕、パチンコホール〔2〕、アミューズメント店〔1〕、クリーニング店〔1〕、リレクソロジー⁷⁾〔1〕。

職場別上位は、介護職員（ヘルパー）16件、スーパーマーケット14件、食料品製造13件、清掃9件であった。

b) 職業分類（有効回答205件、回答者実数202人・掛け持ち3件を含む）：総務省統計局「日本標準職業分類（平成9年12月改訂）」に基づく大分類では、1位が「サービス職

業従事者」78件（38.05%）、2位が「販売従事者」64人（31.22%）と、2職業で約7割を占める偏りとなった。大きく離れて3位が「生産工程・労務作業者」26人（12.68%）で、「管理的職業従事者」「保安職業従事者」に該当はなかった。前回該当のなかった「農林漁業作業者」は、今回「園芸（育成・栽培）」4件が中分類「農業作業者」に当てはまった。

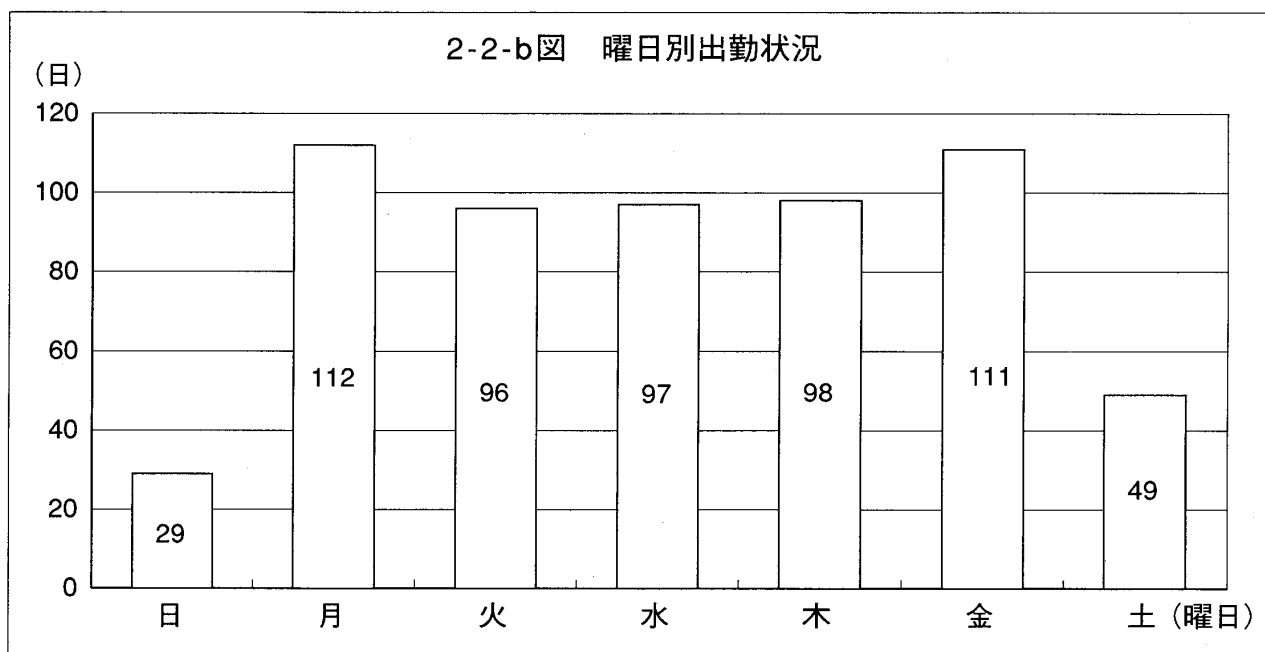
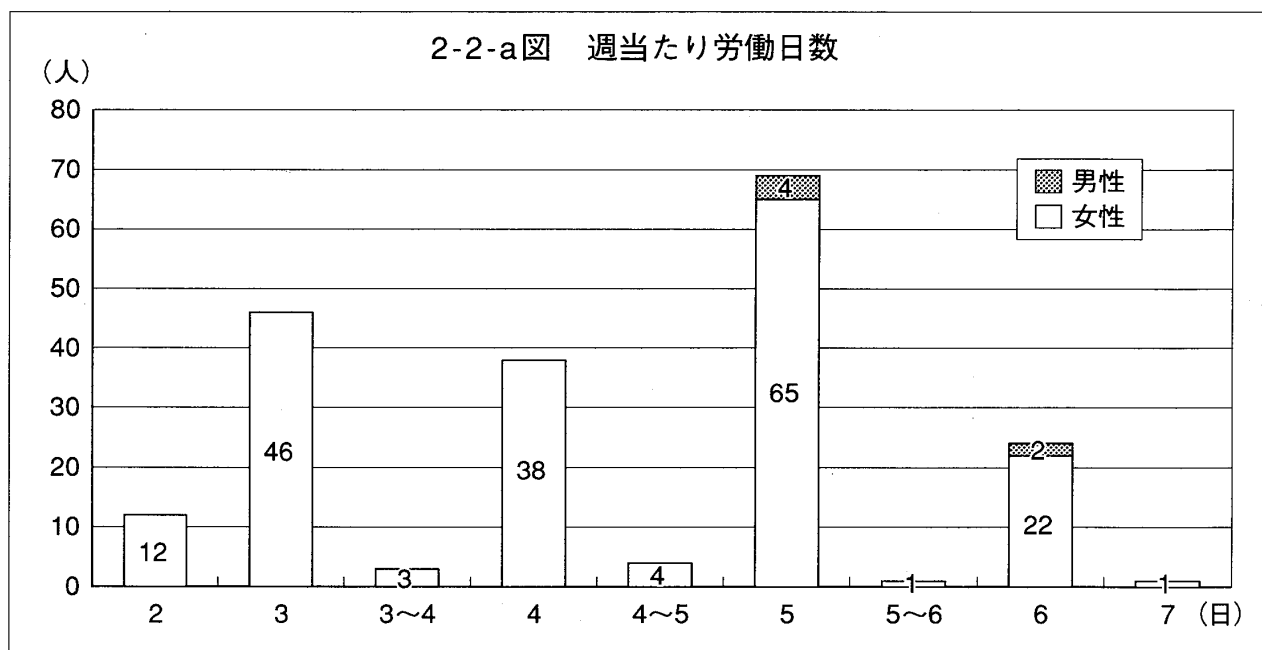


2位の「販売従事者」は、産業分類1位「小売業」の数値が、ほぼそのまま反映された結果である。産業分類4位と振るわなかった「サービス業」が、職業分類では逆転1位となったかに見える理由は、「飲食店」「医療・福祉」のパートタイマーが「サービス職業従事者」に分類されたことに因る。「飲食店」の大部分が中分類「接客・給仕職業従事者」であり、「医療・福祉」の殆どが中分類「家庭生活支援サービス職業従事者」であった—その業務内容は、どちらも『人的サービス』の提供である。

2-2. 労働日数

a) 労働日数（有効回答198人）は、週当たり平均4.3日。実数では週5日労働が69人（34.85%）と圧倒的だが、次いで3日が46人（23.23%）と、若干二分化の傾向が見られる。

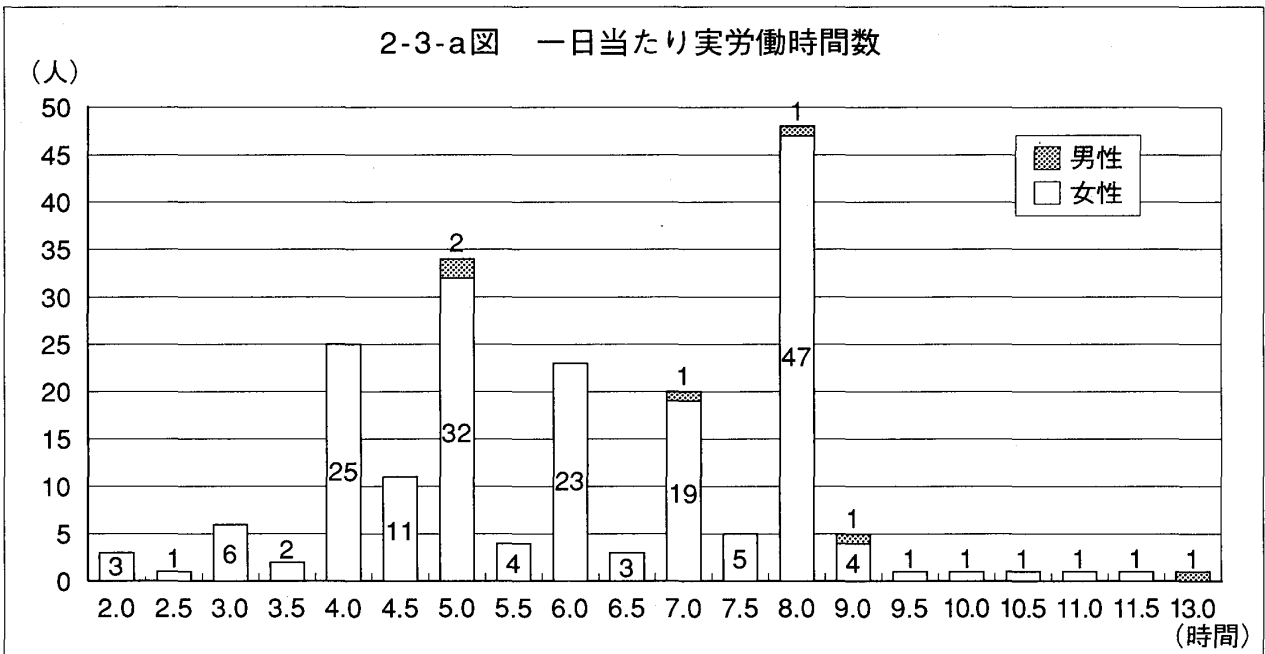
b) 曜日別出勤状況（有効回答140人）は、上述の週5日労働が実数最多である点を反映してか、平日出勤・土日週休という極端な結果となった。出勤日別割合では、月曜80%、金曜79.29%、木曜70%、水曜69.29%、火曜68.57%、土曜35%、日曜20.71%の順。



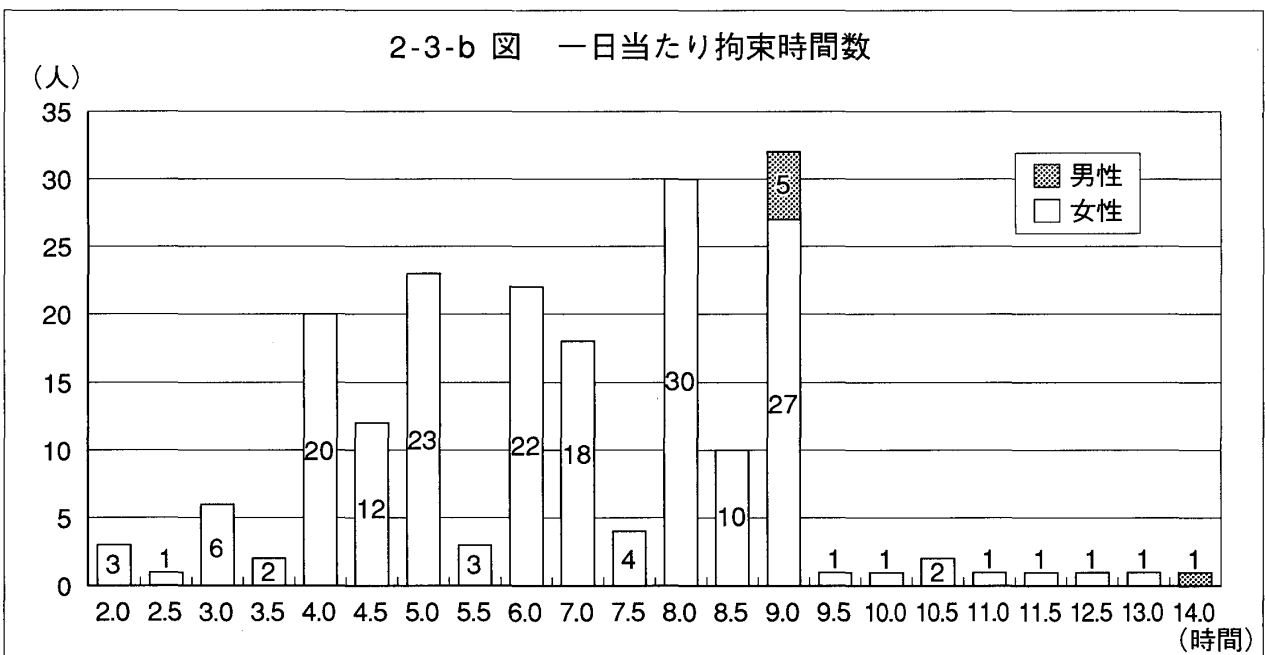
2-3. 労働時間

a) 実労働時間（有効回答196人）：一日当たり平均6時間9分。実数では、「8.0」時間の法定労働日が48人と最多だが、次いで「5.0」時間が34人と、労働日数同様やや二分化傾向が見られる。正社員同一待遇化問題を考える上では、「フルタイム」以上のパートタイマーは30.1%で、「短時間労働者」である残り7割に対しては、法改正後も改善されないという現状とも言える。なお、最短は2時間（45歳女性・商品の積込みと、51歳女

性・カルチャーセンター講師の2人)、最長は13時間(48歳男性・ラーメン店&ファミレスのキッチン)、女性の最長は11.5時間(50歳女性・厨房)であった。



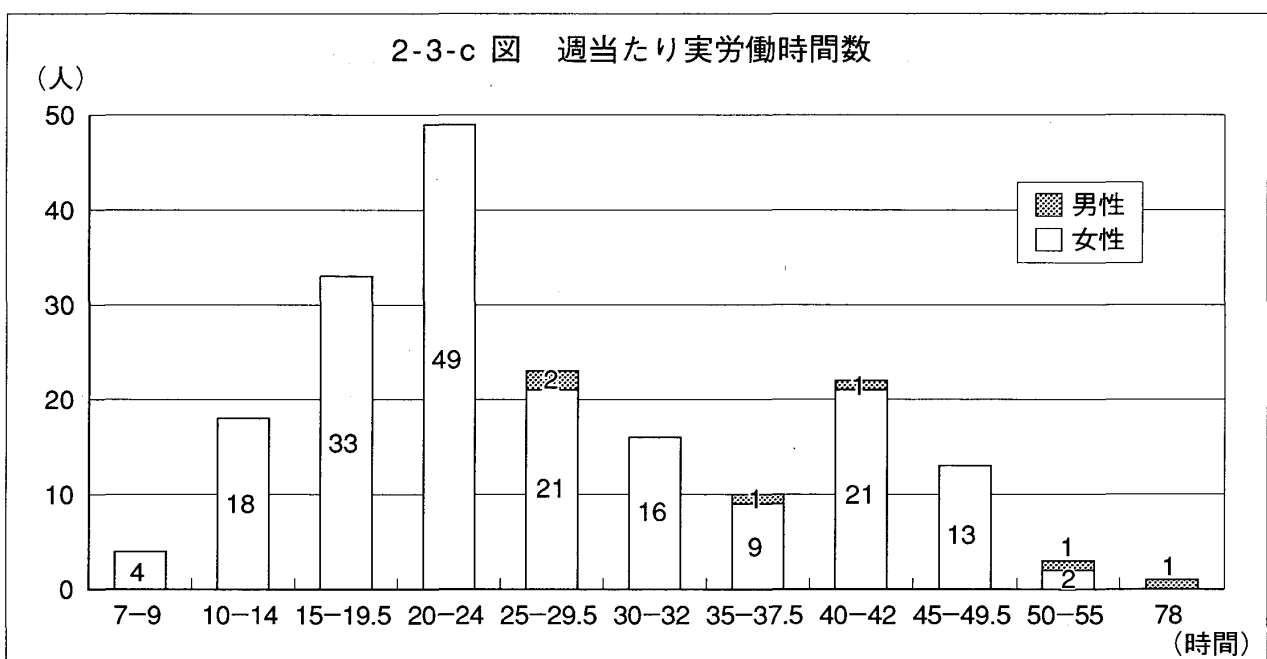
b) 拘束時間(有効回答195人):一日当たり平均6時間41分と、実労働時間を32分上回った。2-3-a図と見比べると、全体が緩やかに30分から1時間ずつ右シフトし、実労働時間では5人しか居なかった「9.0」時間が32人の最多となった。特に、実労働時間数で「5.0」「7.0」「8.0」と分散していた男性5名の拘束「9.0」時間集中が特徴的で、「8.0」時



間以上拘束されるパートタイマーの割合は、41.54%に跳ね上がる。1時間弱の昼食休憩、トイレ休憩、作業前準備・後片付け・引継ぎなど、実労働時間を超過して勤務先に拘束されることは「常識」の範疇であろうが、賃金の裏付けがない上に、あくまで実労働時間8時間以上が将来的に正社員同一待遇化の条件ということになるならば、労働者側にとっての大きな争点となろう。

c) 週当たり実労働時間（有効回答192人）：週労働日数×一日当たり実労働時間で算出した週当たり実労働時間は、平均26時間26分（女性のみは25時間54分）であった。実数では、24時間が21人と最多であった（内訳は3日×8時間が16人、4日×6時間が5人）。5時間刻みでは、「20～24」時間の49人を頂点に大きな山となっているが、「40～42」時間の22人を頂点にもう1つ小さな山が見られ、ここにも二分化傾向が現れている。法定週労働時間40時間を超えるパートタイマーの割合は、約5人に1人（39人、20.31%）と余り高い数値ではなかった。

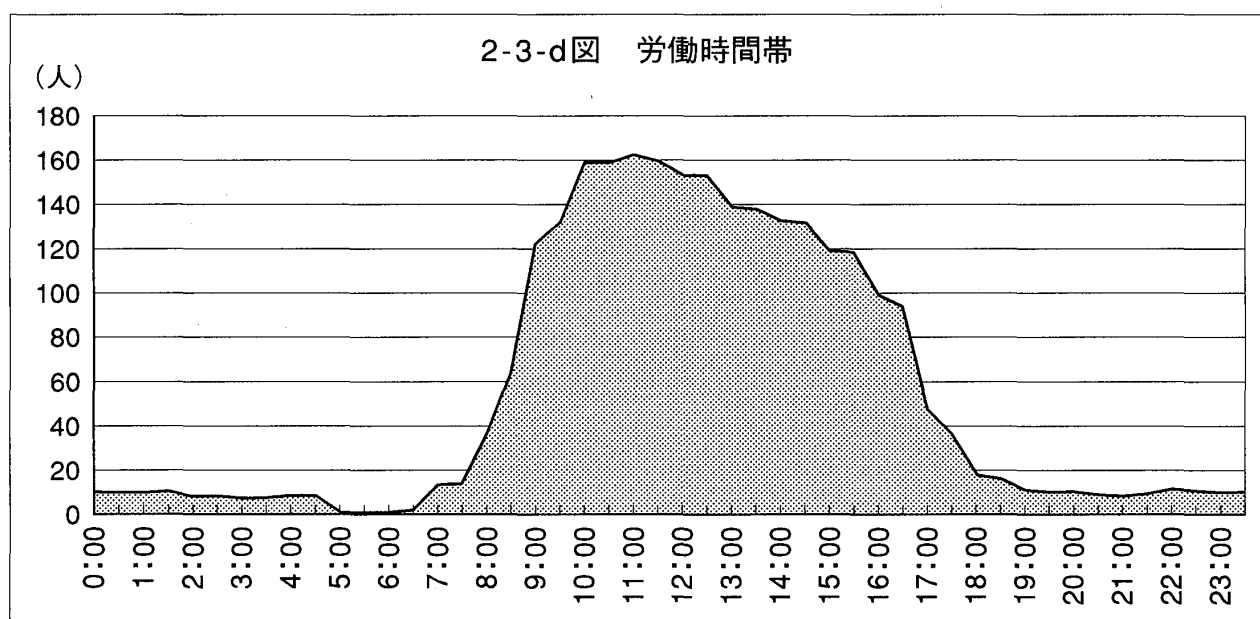
最低値は7.5時間（57歳女性・回転寿司店調理場、週2日×3.5時間）、最高値は78時間（48歳男性・ラーメン店&ファミレスのキッチン、週6日×13時間）、女性の最高値は55時間（65歳女性・食品工場、週5日×11時間）。



d) 労働時間帯（有効回答195人）：2-3-d図は、「出勤時間～退勤時間」表記を基に、30分毎の労働時間を全数積み上げた図である。「2004年度パートタイマー調査」と同様の線形を描きながら、11:00～11:30の162人をピークに、9:00から17:00の日勤時間帯で90人以

上が、特にお昼の時間帯（10:00から13:00）に150人以上が集中している。対称的に18:00から深夜帯を通して8:00までの時間帯は20人以下となっている。

アンケート調査から一日のスケジュールを導出することは不可能だが、子供の送り迎え、食品・日用品の買出し、炊事・洗濯・掃除、そして育児・介護など、大多数が「主婦業」による時間的制約を受けるだろうという推測は容易であり、日勤への集中も自明と言える（「3-1. 家族構成」参照）。

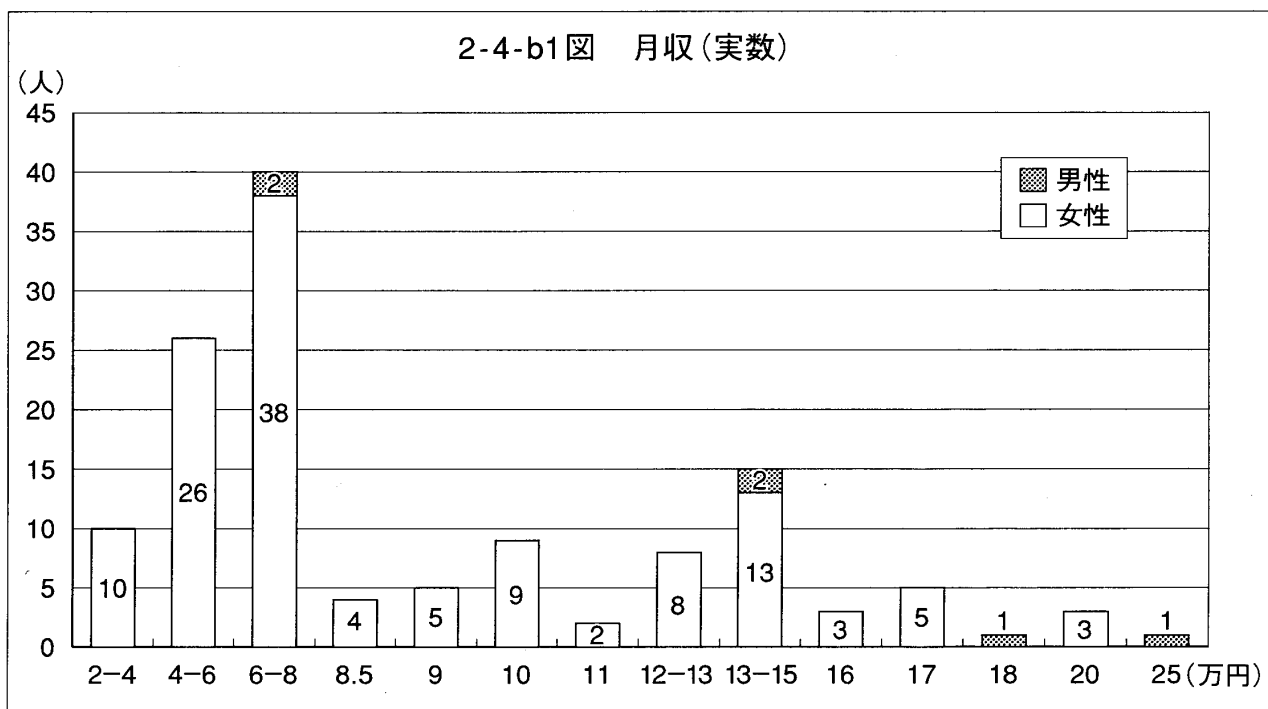
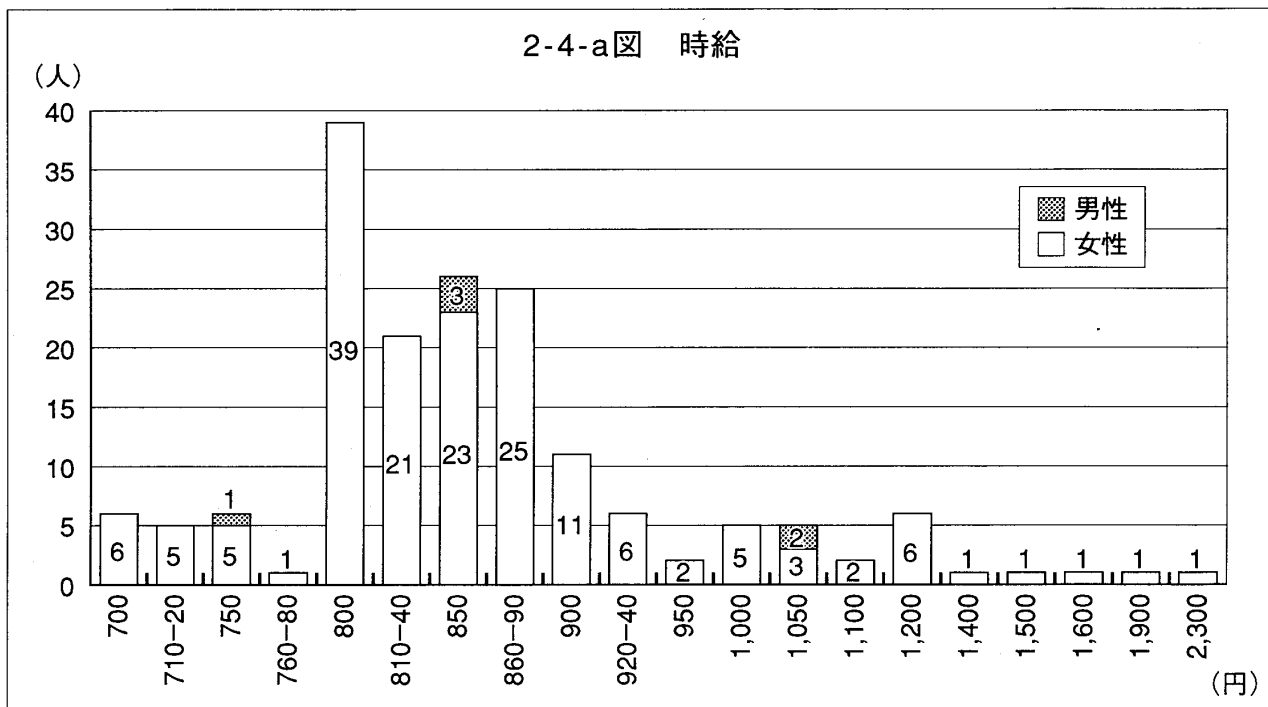


2-4. 賃金

a) 時給（有効回答171人）：700円から2,300円まで、職場によっては1円刻みの昇給もあるが、平均では906.8円。「2005年度フリーター調査」の平均時給937.06円と大差なく、日勤＝深夜割増が付かない時間帯による遜色がなかった点が予想外であった。ただ、実数では「800」円が35人と最多で、フリーター（男性「900」円、女性「850」円が中心）との差は否めない。

最低値700円は、パン製造・販売4人、スーパーの店員2人の計6人。最高値2,300円は、31歳女性でクラブの接客。

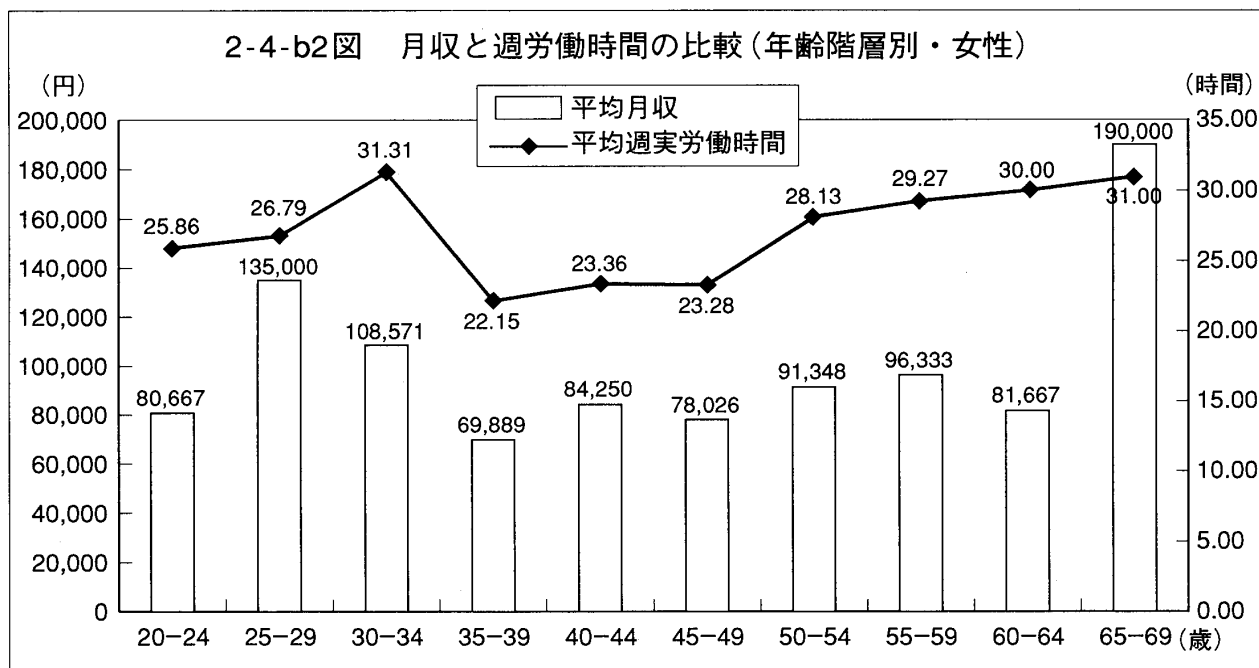
b) 月収（有効回答132人）：最少月収2.5万円（41歳女性・パン製造、週2日×5時間、時給700円）から、最多月収25万円（48歳男性・ラーメン店&ファミレスのキッチン、週6日×13時間、時給850円）まで様々であるが、平均月収は92,045.45円。比較的月収の高い男性データを減じた女性平均月収89,365.08円という額の方が、「6～8」万円が実数最



多であることを裏付けるより現実的な数値であろう。

所得税の源泉徴収額85,833円⁸⁾を超えない月収「8.5」万円以下は、実に60.61%に及ぶ。年齢階層別平均月収で見ると、35歳から49歳までが「8.5」万円以下で見事に凹み、平均週実労働時間を重ねると「30～34」歳の時間数と収入のギャップがやや気にはなるが、いずれも「M字型」に見えなくはない。元来「M字型」とは、「逆U字型」や「台形型」

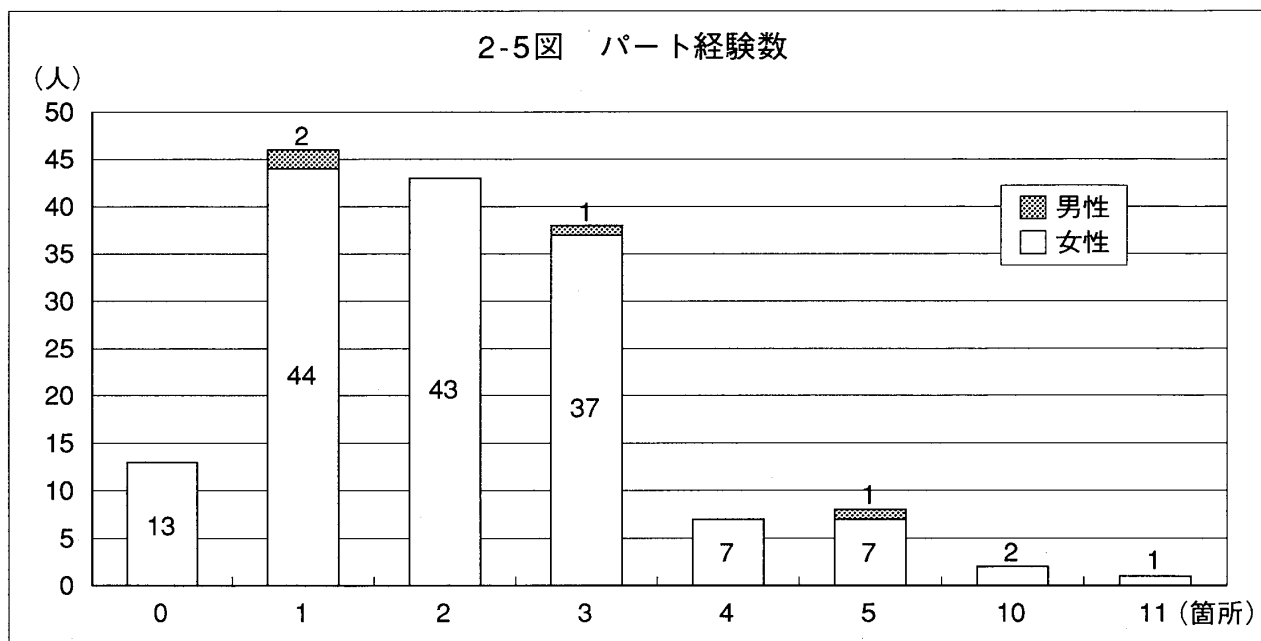
となる諸外国には見られない、年齢階級別労働力率の推移を表した日本女性特有の曲線である。パートタイマーとして労働力化された労働においてもこの線形を描くところが皮肉であり、解決すべき社会問題であると言えよう。また、年金収入の有無に関わらず、「65～69」歳という層が平均週31時間働き、平均月収19万円を稼がなければならないとすれば、日本の社会保障制度に抜本的な解決策が必要とされていると言える。



2-5. パート経験数

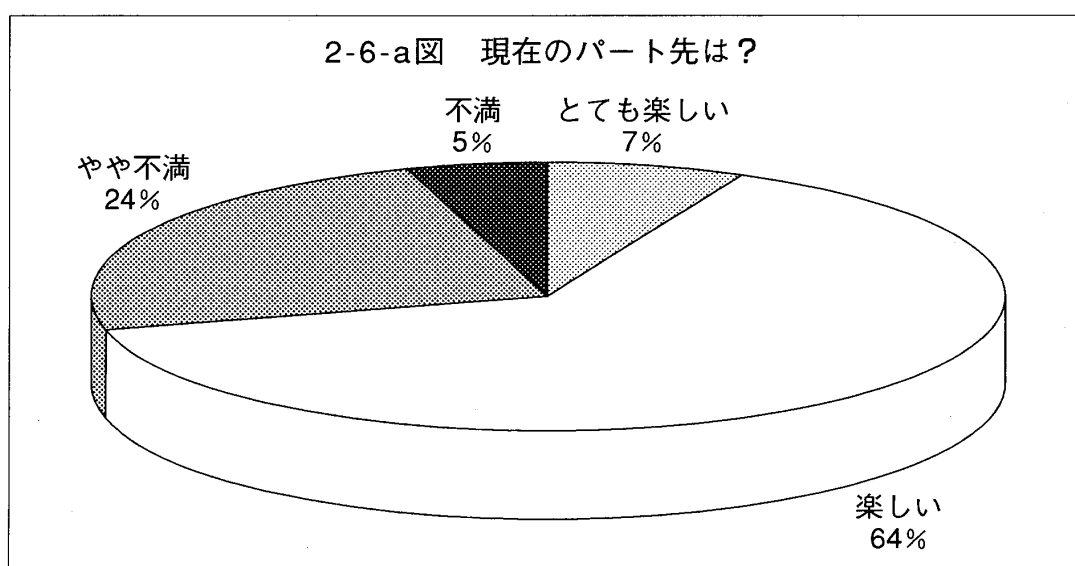
これまでのパート経験数（有効回答158人）は、平均2.2箇所。「1」箇所が最多の46人であるが、「0」箇所は現在のパート先1箇所目として記入していると考ええると、過去の経験が「1」箇所と捉えるべきか、設問に工夫が必要であった感は否めない。その失敗を差し引いても、「2005年度フリーター調査」の平均4.0箇所に比べれば少なく、パート継続期間（有効回答184人）は平均3年4ヵ月に対し、フリーターのアルバイト継続期間は平均1年半であることも考え合わせれば、1箇所の労働期間が長い分、必然的に経験数は少なくなると推察出来る。

なお、現在のパート継続期間最長は、18年2ヵ月（49歳女性、週3日×8時間、サービス業）で、30歳頃から同一のパートタイム労働を続けている計算になる。



2-6. 現在のパート先は楽しいか

a) 同一パート先での長期間労働を可能とさせるには、やはり現在の労働環境の良し悪しが密接に関わってくると思われる。現在のパート先（有効回答183人）は、「とても楽しい」（13人）と「楽しい」（113人）の計が71.04%と大勢を占めた—「2005年フリーター調査」の75.45%には僅かに及ばないが。



「とても楽しい」（コメント8人）の理由別では、「人間関係が良い」、「皆良い人だから」など「対人関係」6人。他に「本に囲まれているので新しい情報もすぐ入るので」（41歳女性・本屋のレジ）、「自分の能力を生かして、趣味と実益を兼ねた職業だから」（51歳女

性・カルチャーセンターのインストラクター)。

「楽しい」(コメント53人)の理由別では、「パート同士の対人関係もいいし、社員さんのパートに対する態度もいい」「良い人達に囲まれている」など「対人関係」26人、「好きな仕事なので」「仕事に慣れているから」など「仕事内容」24人。他に、「色々社会勉強になるから」(20歳女性・スーパーのレジ)、「お客さんの笑顔」(26歳女性・百貨店の化粧品売場)、「常勤の時の呼び出しその他の思い責任が除かれる」(69歳女性・老人ホームの看護師)。

「やや不満」(コメント31人)の理由別では、「対人関係(店長に不満)」「人間関係が難しい」など「対人関係」7人、「時給が上がらない」「収入が安定してないため」など「賃金」6人、「体力的に少し厳しい」など「重労働」6人、「人数が少なくて大変」など「人手不足」5人、「時間帯が不特定のため」など「時間・日数」5人。他に、「仕事することが少ないから」(59歳女性・園芸栽培)、「初めてやってみて、やりがいを見つけられなかった」(30歳女性・ウェイトレス)。

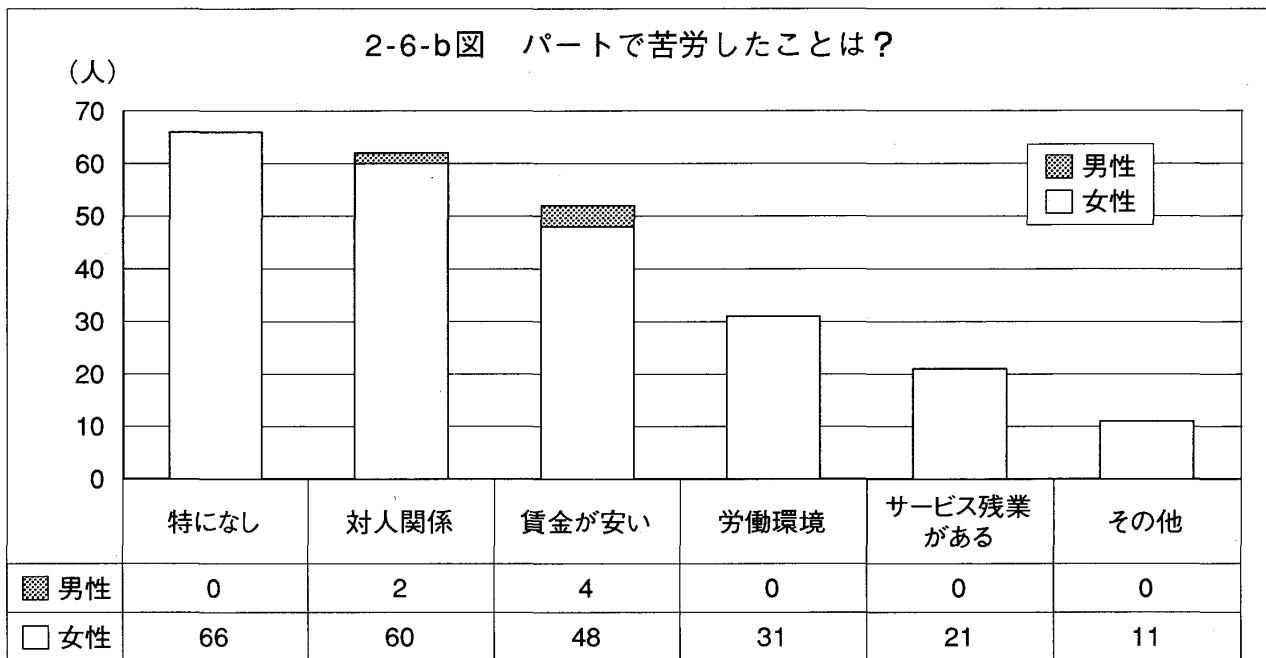
「不満」(コメント6人)の理由別では、「リーダーと呼ばれる人がしっかりしていないので、まとまりがなく雰囲気は最悪である。一人一人の作業を見ていない。毎日イライラ!」など「対人関係」4人、「力仕事が多くて体が疲れるし、賃金も仕事が大変なのに低い」など「賃金」2人。

パート先を「楽しい」と感じるか「不満」と感じるかは、その職場での上司・同僚との「対人関係」と、労働の対価としての「賃金」の多寡が、大きく関わっているようである。

b) パートで苦労したこと(複数回答243件、回答者実数196人)は、「特になし」が34.2%で第1位。苦労が特になく楽しいのなら、確かに長期間労働にも領けよう。僅差で「対人関係」31.63%、「賃金が安い」26.53%と続き、上記で考察したパート先を楽しんでいると感じるか否かのポイントと合致する結果となった。

「その他」は、労働条件6件(「雨や強風の時、雪は最悪」「採用条件が最初と違う(労働時間で)」)、「人手不足で休みを申告しづらい」など)、仕事内容3件(「仕事の内容がわかるまで」)、「1日の労働時間が短く仕事がなかなか覚えられない」など)、正社員との関係2件(「社員との格差。パートの方が働きがあるのに!!」)、「正社員が仕事をしない」)の計11件。

2-6-b図 パートで苦労したことは？



3. 生活に関わるデータ

3-1. 家族構成

同居家族数（有効回答181世帯）は、1位が「4人」（46.96%）、2位が「3人」（19.34%）で、平均家族数は2.8人。最少家族数「1人」は48歳男性、49歳女性、58歳女性、64歳女性の4世帯。最大家族数「7人」は、自分（43歳女性）・夫・子供3人・父母と、自分（59歳女性）・夫・子供3人・孫2人の2世帯。

配偶者がいる割合は83.43%、1人以上の子供がいる割合は82.32%。5人に4人以上が妻（一部夫）であり、母（一部父）である。平均子供数は1.59人（288人／181世帯）と、2006年度出生率1.29人より若干高いが、単純再生産にも達していない少子傾向には相違ない。子供のいる世帯に限定すれば、平均子供数は1.93人で、実数でも1人が39世帯、2人が83世帯、3人が25世帯、4人が2世帯となっている。男性データを除き、女性パートタイマーが夫および／または子供を持ついわゆる『主婦』である割合は、実に92.61%（163人／176世帯）に達する。家事・育児など『主婦』業中心ならば、日勤平日のパートタイムでしか働けないという労働事情にも合点がいくだろう。

3-1表 同居家族数と配偶者・子供の有無（単位：世帯）

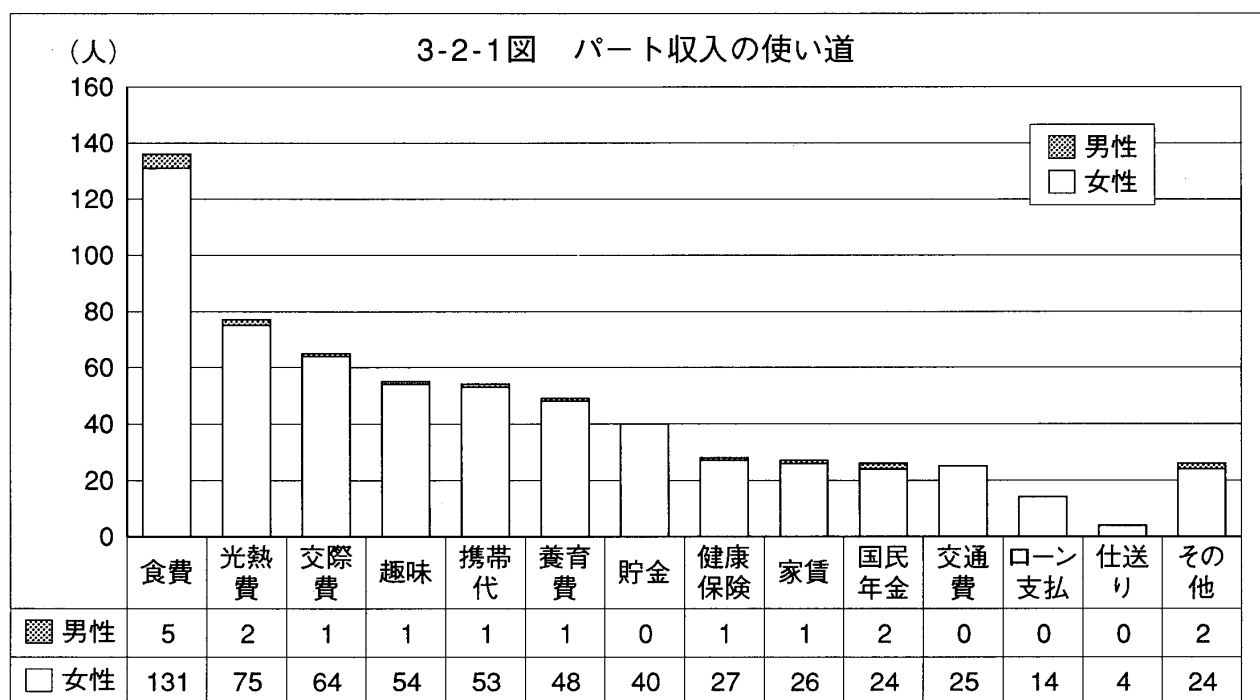
家族数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	計	全世帯比(%)
配偶者有／子供有	0	0	25	75	24	7	2	133	73.48
配偶者有／子供無	0	17	0	1	0	0	0	18	9.45
配偶者無／子供有	0	3	7	4	2	0	0	16	8.84
配偶者無／子供無	4	1	3	5	0	1	0	14	7.73
計	4	21	35	85	26	8	2	181	
全世帯比(%)	2.21	11.60	19.34	46.96	14.36	4.42	1.10		

3-2. 収入の使い道

パートタイム労働による収入の使い道（複数回答626件、回答者実数201人）は、断然トップが「食費」（67.66%）、2位が「光熱費」（38.31%）、3位が「交際費」（32.34%）、4位が「趣味」（27.36%）と続く。3人に2人が「食費」に、4割近くが「光熱費」に充てている点が、夫の収入では賄い切れない『家計補助』の裏付けと断言し得よう。

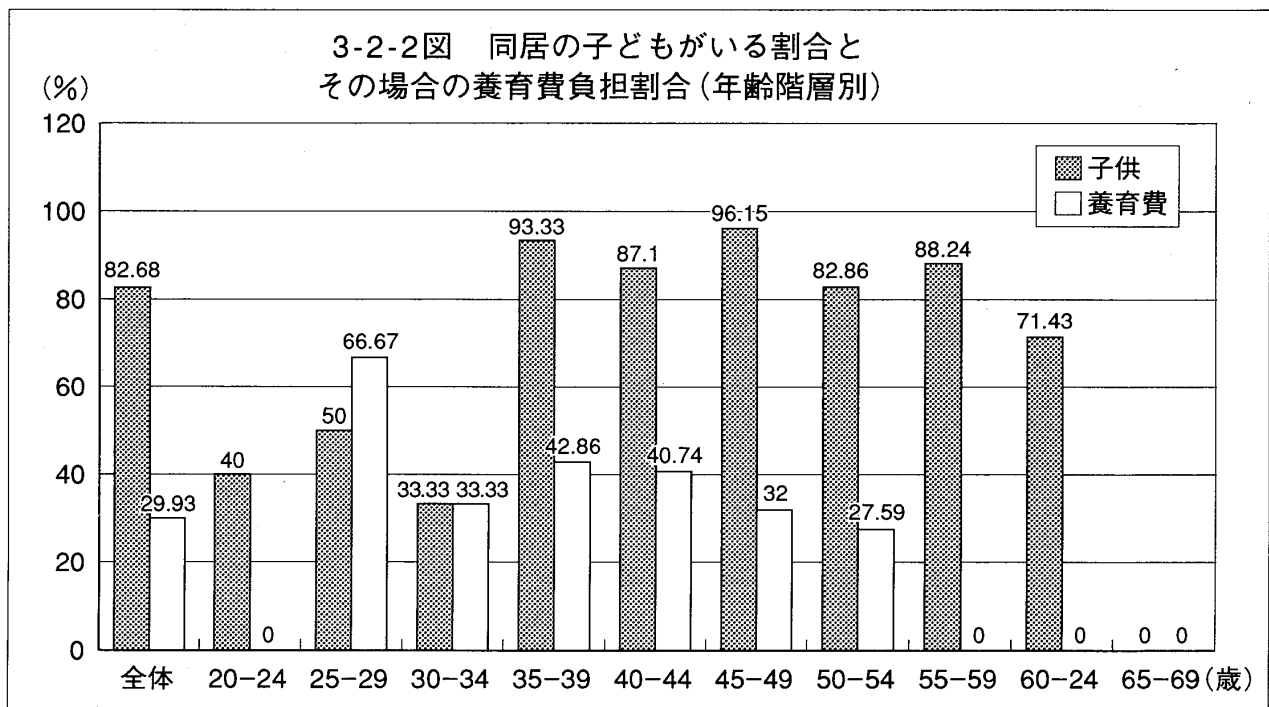
「趣味」は、該当56件の半数28件に内容記載があった。「旅行（国内外）」5件、「花・押し花」3件、「ガーデニング」「買い物」「演劇・お芝居」「スポーツ」「音楽鑑賞」「ギャンブル」各2件、「映画」「カラオケ」「野球観戦」「ハイキング」「トールペイント」「ピアノ」「ライブ」「服」各1件となっている。

「その他」は、「生活費・家計費の一部」8件、「保険・生命保険」6件、「レジャー」2件、「雑費」、「被服」、「教育資金」、「学費」、「子供達のスイミングスクール代」、「子供へ



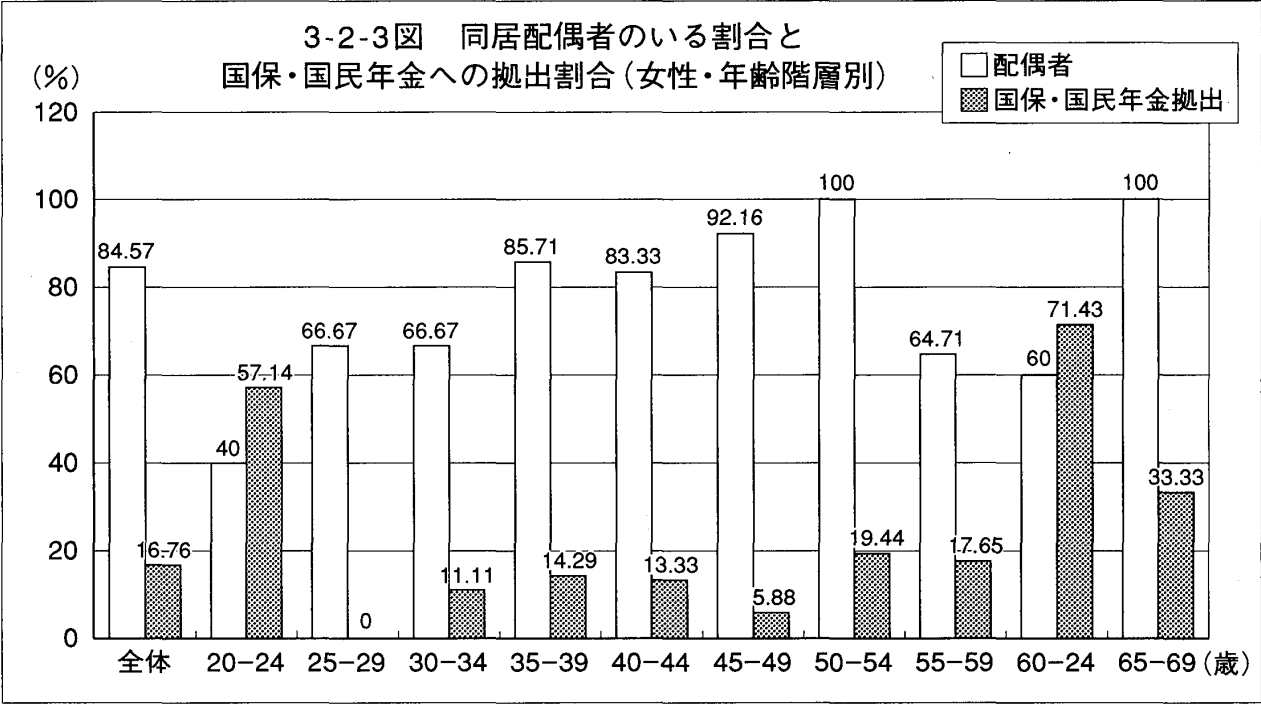
の小遣い」、「ペットの病院代」、「借金返済」、「全て妻に渡す」(61歳男性)、「預けたまま、未定です」の計26件であった。

「2004年度パートタイマー調査」では4位であった「養育費」(29.61%)が、今回は6位(24.38%)で、項目として「学費」を追加すれば数値が伸びたかも知れないという悔いは残る。それでも、年齢階層別に見れば、3-2-2図の通り、「25～29」歳を頂点に逡減しつつ54歳まで「養育費」を負担している。55歳から64歳にかけて「養育費」負担が0%であるのは、同居子供の割合が緩やかに減少していく数値と併せ、末子の最終学卒年齢に伴う独立で育児・扶養が一段落する画期と予想される。各項目で幾度か紹介してきた48歳一人暮らしの男性パートタイマーが、週6日×13時間の労働で得た月収25万円の中から「養育費」負担していることを、ここに覚書的に記しておきたい。



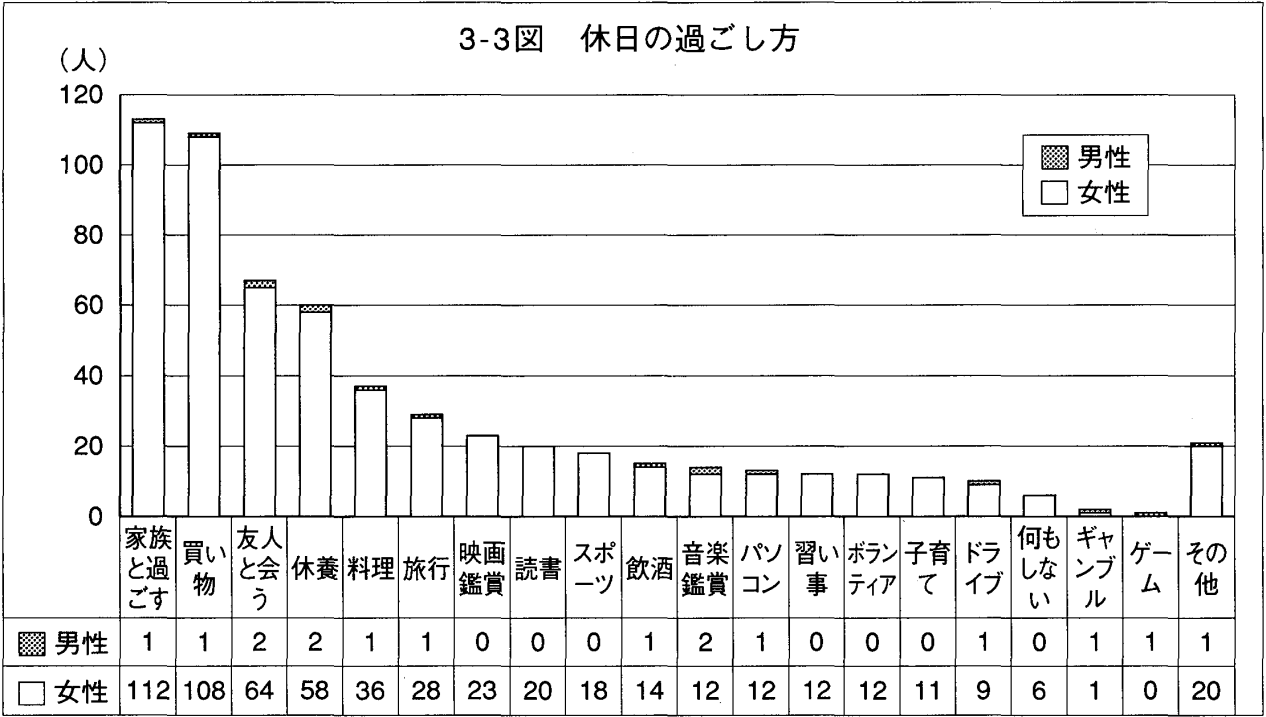
パートタイマーの公的年金・健康保険を考察する上で、夫が正社員として働いている期間であれば、「国民年金」は第3号被保険者として、「健康保険」は扶養家族として、公的保険拠出金分は夫の給料から天引きされる。3-2-3図の通り、同居夫のいる割合は年齢と共に逡増し、25歳から64歳までの拠出者は少ない。逆に、25歳未満は未婚、60歳以上は夫の定年退職または離別・死別などを理由に、加入者本人の拠出負担割合が高くなっているものと推察される。特に、勤労収入の激減する60歳以上の段階に至ってまで、健康保険のみならず介護保険への本人拠出を強いるという国際的には例を見ない社会保障の非常識

を疑うべきであろう⁹⁾。無年金問題もまた然り。



3-3. 休日の過ごし方

休日の過ごし方（複数回答592件、回答者実数201人）は、1位が「家族と過ごす」（56.22%）、2位が「買い物」（54.23%）、3位が「友人と会う」（32.84%）、4位が「休養」（29.85%）と続く。



「2005年度フリーター調査」でも4位は「休養」であったが、その理由は、平均週5日×7時間40分労働という現実には「フリー」とは言い難いところにあった。パートタイマーの「休養」は、やはり「主婦業（家事・育児・場合によっては介護）」＋「社会的労働」という肉体的・精神的疲労の帰結の様に思われる。

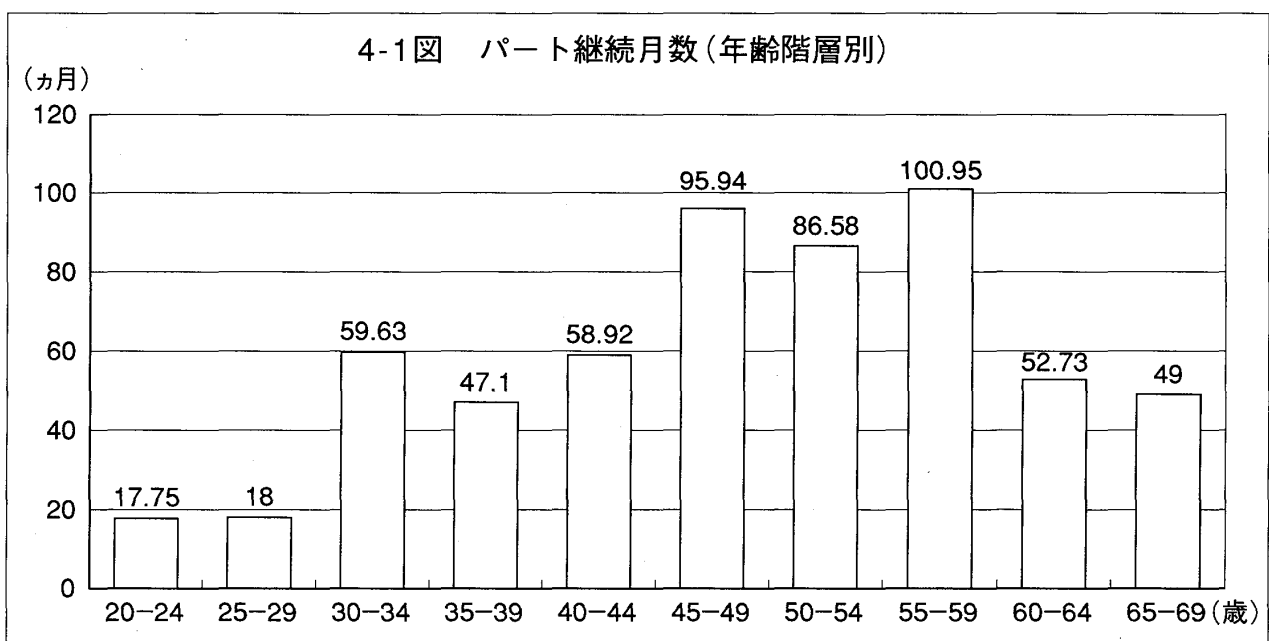
「その他」は、「家事・掃除・洗濯」7件、「園芸・ガーデニング」5件、「山」、「家族で食事」、「外食」、「孫との食事」、「子供の野球の応援」、「子供のサッカー応援」、「ピアノの先生」、「バイト」、「寝る」の計21件。

4. 労働と生活の両面に関わるデータ

4-1. パート生活歴

「2-5. パート経験数」では、現在のパート継続期間が平均3年4ヵ月であることに触れたが、パート生活という意味では「パート歴は何年か」の方がより重要であろう。パート歴（有効回答147人）は、平均6年2ヵ月。パート経験数が平均2.2箇所であるから、単純に掛け合わせて妥当な数値とも言える。

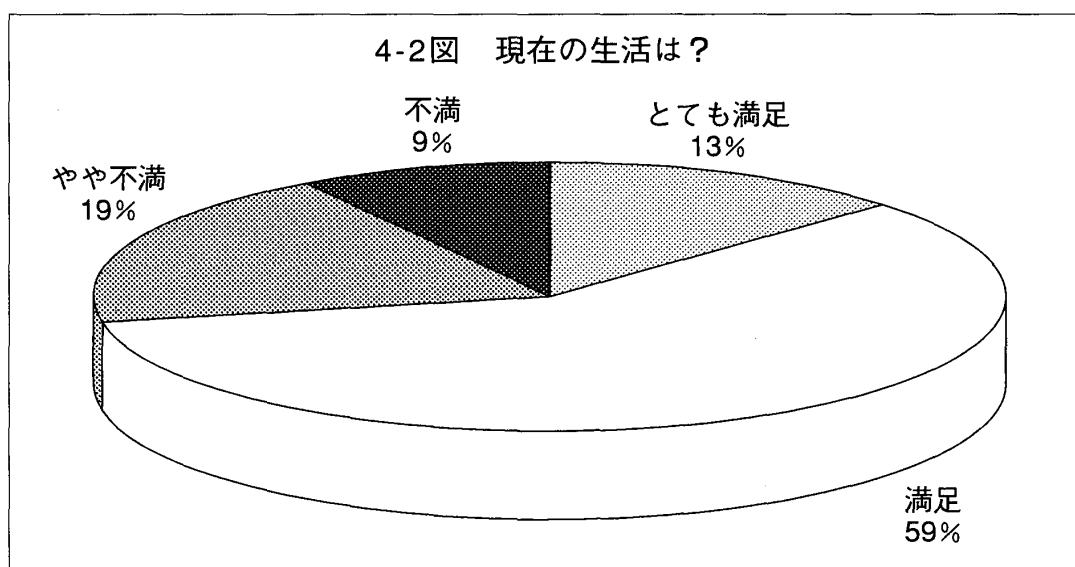
常識的に考えれば、加齢と共にパート歴も長期化し、年齢階層別グラフは右上がりに通増すると推測出来ようが、実際には45歳から59歳での大きな山と、「30～34」歳での小さな山という二分化が見られる。結婚または出産・育児によるリタイアと末子の学卒年齢終了に伴う労働市場復帰を主因として、ここにも不恰好な一つの「M字型」が現れている。



なお、パート歴最長は、55歳女性の21年1ヵ月。21歳の息子（大学生）が居ることから、出産後間もなくパートタイマーとなったと予想される。「収入が少ないので生活が苦しい」、「定年になって仕事が無くなったら、すぐに子供に頼るしかないので、出来るなら再婚して子供の負担を減らしたい」と添えられたコメントが、パート労働を続けざるを得ない厳しい実情を物語っている。

4-2. 生活の満足度

現在の生活の満足度（有効回答196人）は、「とても満足」（26人）と「満足」（115人）の計が71.94%と大勢を占めた。



「とても満足」（コメント14人）の理由別では、「家族皆元気に暮らせている」「休日に主人とハイキング」など「家族関係の良好さ」が12人と圧倒的であった。他に、「好きな物が食べれて、好きな物が自由に買えるから！」（26歳女性）、「長男、長女も自立を始めて自分の行動範囲が広がり、自由な時間も増えた」（48歳女性）。

「満足」（コメント48人）の理由別では、「家族皆が健康なこと、健康でなければ仕事も遊びも出来ません!!」「皆健康であることをありがたいと思います」「家庭円満だから」など「家族の円満・健康」20人、「平凡だが生活に支障なく暮らしているから」「それなりの生活が出来ているため」「何も変わらないから」など「普通・平凡」14人、「充実した生活を送っているから」など「充実」6人、「子供から手も離れ自分の時間が持てるようになった」など「時間的自由」6人であった。他に、「仕事と生活のバランスがとれて、心身共に健全です」（69歳女性）、「週一回のテニスが出来ているから」（46歳女性）。

「やや不満」（コメント26人）の理由別では、全員が「毎日働いてもお金はすぐになくなります。いつになったらゆとりが持てるか心配です」「ローン支払いに加えて子供達の学費が重なり、経済的に全く余裕がない」「年金では生活できないためパートに出ている」など、収入・時間の両面で「ゆとり・余裕」を求める声であった。

「不満」（コメント13人）の理由別では、「今の夫の年収でやりくりできない」「賃金は安いしイライラが続いている」「収入が少ないので生活が苦しい」など「収入」8人、「子供が小さく幼稚園のお迎え等あるため、いつも時間に追われている感あり」「もう少しパートの時間を減らして自分の時間を作りたいです」など「休日・時間」4人であった。他に、「無趣味の夫が毎日いる、ニートの34歳がいる」（59歳女性）。

4-3. 「パートタイマー」と「フリーター」

「M字型」の2つの頂点で二分化される「パートタイマー」を、平均値で語ることに真実味はあるかという異論はあろうが、目安的な判断基準は必要と考え、千葉県内で実施した2つのアンケート調査結果を比較したものが4-3表である。様々な場面でContingent Workerとしての共通項が見られるが、週40時間のフルタイム以上で、より正社員並の労働を強いられているのは「フリーター」であろう（フルタイム率参照）。2008年度には「フルタイムパート」の正社員同一待遇化が法制化されそうな現況において、「フリーター」の正社員同一待遇化も早急に議論の俎上に乗せる必要があるだろう。「生活の満足度」の低さが、それを如実に物語ってはいないだろうか。

4-3表 「2006年度パートタイマー調査」と「2005年度フリーター調査」の比較

	パートタイマー2006	フリーター2005
平均年齢	46.5歳	22.2歳
産業分類	1. 卸売・小売業、2. 医療・福祉 2. 飲食店・宿泊業、4. サービス業	1. 卸売・小売業、2. サービス業 3. 飲食店・宿泊業
職業分類	1. サービス職業従事者（38%） 2. 販売従事者（31%）	1. サービス職業従事者（49%） 2. 販売従事者（36%）
労働日数	4.3日	4.7日
平日・土日出勤率	73.43%・27.86%	71.43%・61.17%
実労働時間（日／週）	6時間9分／25時間54分	7時間40分／36時間27分
労働時間帯ピーク	11:00～11:30	16:30～17:00
フルタイム率	20.31%	32.26%

時給	906.8円	937.06円
月収	89,365円	129,430円
職場経験数／継続月数	2.2箇所／3年4ヵ月	4.0箇所／1年6ヵ月
収入の使い道	1. 食費、2. <u>光熱費</u> 、3. 交際費	1. <u>携帯電話</u> 、2. 食費、3. 交際費
休日の過ごし方	1. <u>家族と過ごす</u> 、2. 買い物 3. 友人と会う、4. <u>休養</u>	1. 買い物、2. 友人と会う 3. デート、4. <u>休養</u>
職場の満足度	71.04%	75.45%
生活の満足度	71.94%	<u>53.03%</u>

※表中の下線については、各章の項目別に特徴として分析済みのため、ここでの詳述は割愛させて頂く。

「女性的観点」という言葉を使うとジェンダー学派の批判を受けそうだが、「将来の夢・展望、これだけは言いたい！」ことをお願いした自由記入欄には、『女性』『主婦』という立場からの頷ける意見・批判が多く綴られていた。

・家族への思い

「家族ずっと仲良く暮らしていきたい」(23歳女性)

「こんな世の中だけど、真面目に働いて、誠実に生きる姿を子供に見せたい。そして、子供達にまっとうな大人になって貰いたい」(45歳女性)

「子供達それぞれが自立し、余裕が出来たら、自分と主人の両親を旅行にでも連れて行きたい」(47歳女性)

「主人と長生きし、仲良く人生を送りたい」(54歳女性)

・労働条件

「正社員もパートも仕事内容は同じ、給料の差がありすぎる」(64歳女性)

「これからは企業側で有能な高齢者を使うべきです」(69歳女性)、

「毎日忙しいがいずれ退く時満足していたいので、今は精一杯仕事するようにしています」(34歳女性)

・社会保障関連

「将来、主人と二人ですが、楽しい老後が送れますよう。そのため年金のこととても気になります」(48歳女性)

「安定した老後が送りたい」(49歳女性)

「子供が就職できて、社会人として独り立ち出来るまで健康でいたい」(50歳女性)

「元気で自分のことが出来ると良いです」(58歳女性)

・国への要望

「今の世の中殺伐としているので、明るい国になること」(43歳女性)

「税金が高い」(52歳女性)

「今の老人に対する政府のやり方は違っている」(61歳男性)

雇用保障・賃金保障を中心とする労働条件改善、年金・医療・福祉などの社会保障を中心とする生活条件改善、ひいては社会政策全般の改善に向けた取り組みは急務である。

むすびに代えて

本調査開始時に、通称「パートタイム労働法」改正気運が高まっていた訳ではない。だが、2007年2月13日「パートタイム労働法」一部改正案が国会提出され、「通常の労働者と同視すべき短時間労働者に対する差別的扱いの禁止」¹⁰⁾が盛り込まれるに至った。今後の審議や労働現場の状況によっては、「パートタイマー」の正社員同一待遇化が実現可能なのか未だ眉唾物ではあるし、字義通りの「短時間労働者」への改善もあるのか、皺寄せとして「フリーター」の正社員化打ち止めという後退はないのか、など課題は山積したままである。本調査を含む「パートタイマー」への継続的な実態調査結果が、課題解決への一助となるならば幸いである。

末筆ながら、アンケート調査に協力して頂いたパートタイマーの皆様、実際に調査に当たった30名の学生・卒業生諸君、並びに調査事前準備・集計に助力頂いた鈴木愛・金澤恭子両名に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

注

- 1) 星真実「千葉県のパートタイマー—アンケート調査報告(2004年6月～8月)」(『経済文化研究所紀要』、敬愛大学、10号、2005年5月)を参照されたい。／フリーターとの比較が容易になるように、今回はアンケート調査票を一新したため、前回調査との単純比較が困難になったという問題は残る。
- 2) 千葉、西千葉、稲毛、船橋、市川(以上総武線)、四街道、佐倉、八街、日向、八日市場、千潟、旭(以上総武本線)、八幡宿、木更津、君津、大貫(以上内房線)、茂原、上総一ノ宮(外房線)、検見川浜(京葉線)、久留里(久留里線)、八千代台(京成本線)、芝山千代田

(京成東成田線)、鎌ヶ谷、柏(東武野田線)、千葉ニュータウン中央(北総鉄道北総線)、穴川、都賀(千葉都市モノレール)の各駅周辺で街頭調査を実施。調査の度に遭遇する難点だが、10人声をかけて1人回収出来れば良い方という状況で、各線途中駅で調査を実施したが成果はなかった駅周辺地域は記載を避けた。

- 3) 調査員は、伊藤智幸、稲垣正、稲垣学、王程、王優楠、小口歩美、夏士光、加川昌裕、垣浦祐太、黒木珠子、斉木翼、塩田真由佳、尚筱婷、庄子健太郎、花澤祐太、細野史哉、峰島将之、村上隼人、元永圭、山口智、米本卓也、李鴻濱(以上当時3年ゼミ)、阿比留元、太田尚幸、小澤公義、澤田修平、鈴木愛、藤田和也、森井美樹、渡辺昂の計30名(敬称略)。
- 4) 無効回答19枚の内訳は、居住・勤務地域共に千葉県外10枚—神奈川県4枚、熊本県3枚、東京都2枚、富山県1枚、学生5枚、推定フリーター3枚、データの整合性なし1枚。有効回答総数としては、2004年度調査の210人に若干及ばなかったが、各項目の有効回答数が130人前後であった前回を上回り、その意味でデータの信憑性は増したと思われる。
- 5) 星真実「千葉県のフリーター2005—アンケート調査報告(2005年5月～8月)」(『経済文化研究所紀要』、敬愛大学、11号、2006年5月)を参照されたい。
- 6) 報告中の平均値は小数点以下第2位四捨五入、割合(%)は小数点以下第3位四捨五入とした。
- 7) 調査員の報告によると、足裏マッサージのことらしい。
- 8) 所得税の課税控除額である基礎控除38万円+給与所得控除65万円=103万円を12ヵ月で除して算出。
- 9) 社会保障の「非常識」とは、恩師である工藤恒夫が、財源論中心の昨今の風潮を批判し、固有の政策目的と制度化の三原則、財源調達の方法など、社会保障理論の必要性和、日本が国際的に見て唯一逆コースを辿っている国であることを説きながら、常々口にしてきた言葉である。その理論構築の集大成としては、工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』(新日本出版、2003年1月)を参照されたい。
- 10) 「第八条 事業主は、業務の内容及び当該業務に伴う責任の程度が当該事業所に雇用される通常の労働者との同一の短時間労働者であって、当該事業所と期間の定めのない労働契約を締結しているもののうち、当該事業所における慣行その他の事情からみて、当該事業主との雇用関係が終了するまでの全期間において、その職務の内容及び配置が当該通常の労働者の職務の内容及び配置の変更の範囲と同一の範囲で変更されると見込まれるものについては、短時間労働者であることを理由として、賃金の決定、教育訓練の実施、福利厚生施設の利用その他の待遇について、差別的取扱いをしてはならない」(2008年4月1日施行予定)。